一般社団法人奈良青年会議所
２０１９年度理事長坂田智哉

ＲＥＰＲＥＳＥＮＴ　ＮＡＲＡ
～己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫ぼう！～

【コモディティからの卒業】

ＡＩ（人工知能）をはじめとする新しいデジタル技術の進化はめざましく、２０４５年にはコンピュータの能力が人間を超え、技術開発と進化の主役が人間からコンピュータに移るシンギュラリティ（技術的特異点）に達するとの予測もあるなか、ＡＩがもたらす恩恵を人間社会がいかに享受しうるかを議論する時期に差し掛かっています。近代では、一人ひとりが多くの人間のために「標準化」した、いわゆる人間らしい社会をつくることに必死で、それがテーマでもありました。その結果、私たちは「統一化」されてしまったのです。テレビなどのマスメディアはいい例で、皆が似たような感性や思考となってしまいました。でも、現代は違います。インターネットが登場してスマホが普及すると、個人それぞれが自分の好きなことをできるようになりました。多様性への変化、ダイバーシティです。この変化がとても重要で、私たちは統一化された社会の枠組みでものごとを考えるフェーズから、多様性ある社会でアップデートするすべを考えなくてはならない時代を迎えたのです。

私は、奈良ＪＣが考察する未来においても、同じような視座で現状を把握しなければならないと考えています。私が奈良ＪＣに入会した２０１０年から９年の時を経て、人口減少・超高齢化の進展・激化する都市間競争など、地域が抱える課題が多様化し、組織内外の環境も大きく変化しています。これらの現状を見据え、今後の奈良ＪＣの運動においても、柔軟性のある思考や行動が必要であり、常識に捉われない斬新な運動を展開する時期に差し掛かっていると考えます。ＡＩによって代替される業務や職種、また凄まじいスピードで変貌する社会において、私たち人間が、ＡＩより優れていることは何なのだろうか。それは、侘び寂びといった感性や美意識であると考えます。日本人には、微細な違いを把握する直感、またはフィジカルなものを大切にする美学があり、そのことが精神性の豊かさと捉えられるようになり、日本人独特の感性として根付き、日本の文化を発展させてきました。私たちの生活がデジタルな領域に染まっていくなかで、微細な変化を察知する感性や美意識を研ぎ澄ませ、個性を最大限に発揮し、ＡＩと共存し、よりよい社会を構築していく必要があります。

急速に進化するテクノロジー時代を生き抜くために、奈良ＪＣに所属している一人ひとりが、己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、愛する我がまちのリーダーとして責任と覚悟を持って、個性を叫びシンギュラリティを迎える未来に立ち向かってまいりましょう。

【明るい豊かな社会】
　奈良ＪＣは、２０歳から４０歳までの志の高い青年経済人によって「奉仕」「修練」「友情」という三信条のもと、「明るい豊かな社会」の実現を目指す青年団体であります。それでは、明るい豊かな社会とはどのような社会なのでしょうか。その質問を１００人に問えば、１００通りの回答があると考えます。時代によって社会課題も変化し、地域や個人によっても抱える課題が多様に存在するのではないかと考えます。インターネットが世界を狭め、グローバルに繋がった現代において、画一的な明るい豊かな社会は残念ながら存在しないであろうと考えます。シンギュラリティを迎え、すべての事象が再定義される未来が待ち受けています。この現実を悲観的に捉えるのかどうかは、自分自身の心の持ちようであり、捉え方次第であります。私たちの心の持ちようや行動一つで、未来はどのようにも変えていけると確信しています。時代の変化や各々の捉え方により、一人ひとりがそれぞれに描く明るい豊かな社会。私たちは、この壮大な目標を実現するため、あらゆる事に挑戦をし、地域とともに成長し続けていきます。これからも地域に必要とされるため、メンバーの個性を最大限に発揮し、魅力ある輝かしい団体として精一杯ＪＣ運動を展開していきます。

【創立６０周年～奈良をリデザイン～】
　本年、一般社団法人奈良青年会議所は創立６０周年を迎えます。１９５９年「真に明るい豊かな社会を建設するために」と、先輩諸兄が、奈良青年会議所の設立趣意書に掲げられたこの崇高な精神は、今もなお色褪せることのない私たちの大命題です。以来、６０年という長きに渡り、偉大なる先輩諸兄の高い志と弛まぬ努力と実績によって、現在の奈良ＪＣは存在をしております。私たちが今こうして何不自由なく青年の運動を展開できるのは先輩諸兄が時代や環境に即した地域から必要とされる運動を展開してくださり、組織の信用を得るとともに、行政や関係諸団体をはじめ、市民の皆さまに期待される組織へと成長を遂げ、現在に至っているのであります。創立６０年という節目の年を迎えるにあたり、今日まで奈良ＪＣの歴史と伝統を築いてこられた先輩諸兄の想いと偉大な功績を継承し、奈良のまちが抱える社会問題を解決に導くため、常識に捉われない個性豊かで魅力あふれる組織として、新たな運動を展開していくことが必要です。地域から必要とされる魅力ある奈良ＪＣを創造し、組織を進化させながら確実に次世代へ繋げていくことこそ、最も大切なことであると考えます。
　２０２０年、東京の地でオリンピック・パラリンピックが開催されます。東京オリンピック・パラリンピックに際し、開催地の東京だけで終わらせるということではなく、日本の各地域がこの機会を積極的に活用し、世界中にそれぞれのまちの魅力を発信できるチャンスであると考えます。私たちの地域も、この好機に大きな存在感を発揮して、世界の中にこの奈良というまちがあるという存在感をしっかりと発信していくことが、奈良の成長戦略にとっても大変重要だと考えております。奈良ＪＣの運動においても、節目の年を迎えるにあたり、普段の活動エリア外で事業を行うことは、地域を考える上での視野を広げ

ることや、組織成長の好機に繋がると考えます。活動エリア外から、奈良を俯瞰的に見つめ、奈良のもっている高いポテンシャルを再発見または、再認識でき、地域をリデザインする絶好の機会であると考えます。また、東京というまちは、ＪＣ運動の灯がともった場所でもあります。１９４９年、戦後の混沌とした時代の中、日本に初めて青年会議所が創立されました。日本の青年会議所運動発祥の地において、改めて私たちが担う運動を考え、地域に必要不可欠な団体として新たな魅力を創造し発信するとともに、新たな価値観を身に付け、地域の発展に寄与できる好機となるよう運動を構築していきます。

奈良という地域が、世界に誇れるまちとして、また真に秀でた魅力あるまちとして更に存在感を高められるよう、メンバー一同全力で創立６０周年の運動に取り組んで参ります。

【地域×デザイン】

これからの時代、ひとづくりにもまちづくりにも必要なのはオリジナリティであると考えます。そのまちからしか生み出されないもの、そのまちでしか見ることのできない景色、そのひとしか語れない言葉があり、そのことが、今後の地域が活性化するために必要であると信じています。平成という一つの時代が終わり、新しい時代においては「普通」であることがリスクになると感じます。「普通」として決められたルールに沿って生きることは楽であるのかもしれません。近代の大企業の多くは、普通で均一化された人材を採用し日本という国の発展に寄与してきました。しかし、テクノロジーやＩＴが発展した現代においてそういった人材が求められなくなってきました。ここにイノベーションの出発があります。グローバル市民として生きる私たちは、時代の節目に自分の過ごす地域について学び直し、課題意識とそのテクノロジーを含めた解決策を模索することで、次の時代への希望とポジティブなアクションプランに落とし込む道具になると考えます。また、多様化する社会において、多彩な人材の活躍も地域社会の持続的な成長にとって不可欠であります。こういった常識に捉われない、閉塞感を突破しうる意識変革をもたらす人材が、未来のまちを形成していくのであります。

地域や社会が抱える課題は広範で複合的であるため、一個人、一組織で解決するよりも行政、関係諸団体、市民を巻き込み共創して解決していくことが必要です。テクノロジーを通じて改めて人の繋がりを強くする活動が、今後のサスティナビリティを意識し、様々な問題を解決する上で重要なことではないかと考えます。

【未来投資～挑戦と行動～】

未来を切り拓くのは「人」であります。どれだけＡＩやＩＴが新たな価値を生み出す時代になってもそれらを具体的に担うのは「人」であると考えます。世の中の変化に伴って、これからの時代のリーダーや人材にも変化が生じてきていると考えます。近代におけるリーダー像は会社の象徴としてのリーダーが特徴でありましたが、現代におけるリーダー像は多様な余地やアソビの感覚を

もった人材が求められるのではないかと考えます。その人にしかみえない視座、視差といったものを認める意識が重要であり、様々な事象を、あらゆる角度や視点から凝視する必要があります。それらを考えるというのは、とても物事を深く考えていくということであり、日本人がもつ独特な感覚や、内に秘めたる感性と美意識にいかに磨きをかけられるか。今まで価値のないものに対し価値があるといえる人材なのか。常識に捉われることなく、多様性を包摂する社会にいかに対応できるのか。そのためには、違う視点をもって、その視座にどれだけフォーカスしていくのかが重要です。私たちは、地域を牽引するリーダーとして、楽観的な未来を掲げ、あらゆる課題に挑戦することや、挑戦する人を応援することが重要であると考えます。これからは、一人ひとりが自分固有の感性や美意識、また気付きを軸足にしながら、賛同してくれる仲間と一緒に挑戦と行動を繰り返し、世界の偶然性に身を晒し続けていく必要があります。物事を柔軟に捉え、異なる視点を組み合わせることができる人材こそが、次なる革新を起こすことができるのです。

【会員拡大への覚悟】

全国の多くのＬＯＭの会員数が減少していくような時代へと環境が変わり、青年会議所の存続そのものが厳しい時代であります。各地域のＬＯＭがこのような問題を抱えているなか、奈良ＪＣも例外ではありません。私たちが更に活動的な団体となり得るか、そうでないかは私たち自身の心構えと行動次第です。会員数が減少傾向にある昨今でも、会員数を増加させているＬＯＭもあります。私たちが、会員拡大を自らの問題としてメンバー全員の共通課題として取り組んでいくならば、必ず会員の拡大を達成することができると確信しております。奈良ＪＣのメンバーであることを皆が誇りに思える奈良ＪＣである為にも、正会員１００名体制を目指して私自らが先頭に立って、会員拡大を進め実現させてみせます。

【奈良ブロック協議会】

本年、奈良ＪＣから奈良ブロック協議会に会長を輩出致します。歴史ある奈良ブロック協議会に会長を輩出することは名誉なことであります。奈良ブロック協議会がこれからも日本から注目されるブロックとして存在感を示せるよう、全力で参加、協力していきます。そして、奈良ブロック内各地のＬＯＭとの連携を密にし、情報交換や会員同士の交流を深め、自己成長の機会創出へと繋げてまいります。さらに、日本ＪＣ、近畿地区協議会、奈良ブロックとの関わりにおいても、積極的な姿勢で事業等に参加、協力して多くの学びを得る機会としてまいります。また、日本ＪＣは全ての政策の展開にあたってＳＤＧｓと関連した目標を定め、多くのパートナーと共有し、各地のＪＣとともにその目標を進ませる主体となるべきである、と提言されています。奈良ブロック協議会とＳＤＧｓの推進に向けた運動を連動し、活動する私たちの仲間との繋がりを強め、ベストプラクティスを共有する機会を作るべきであると考えます。

【組織価値の向上】
　奈良ＪＣは、多くの先輩諸兄の活躍により、地域や市民の皆さまからの信頼を得て、歴史と伝統が受け継がれた団体として存続してきました。私たちが当たり前に運動できているのにはこのような背景があり、組織が存続していることを理解することで改めて先輩諸兄に感謝するとともに、ＪＣと地域が繋がっていることを認識するのであります。今後も引き続き、地域から必要とされる団体であるためにも、健全で透明性のある組織つくりを継続して行っていかなければなりません。公益性のある運動を行う団体として、厳正かつ適切な財務管理をすることがまず求められております。財政面はもちろん、コンプライアンスに関しても徹底的に遵守する必要があります。また、地域のためにより良い運動を展開していくためには、組織運営を円滑に行う必要があります。組織とは個の集合体であり、個である会員一人ひとりをまとめあげ、組織として連携していくことで、より効果的な運動をすることができるのです。そして、ＪＣでは多くの会議で議論を重ねることで、地域のためのより良い運動を追求するとともに、会議を通したメンバーの自己成長へと繋げる組織です。会議の質が落ちれば、自ずと運動の質も落ち、自己成長の機会も失われます。ＪＣ活動をするなかにおいては、ルールや行動規範を徹底できるよう組織に浸透させ、組織としての価値を高めていく必要があります。

【ＤＥＰＡＲＴＵＲＥ】
　「諸君、狂いたまえ」
吉田松陰の言葉であります。
常識に惑わされず、現状に満足せず、自分の信じる道を進め、という意味です。私自身も、成功は常軌を逸した行動の先にあると信じています。私たち一人ひとりが、奈良というまちを背負っている自覚と覚悟を持ち、激動の時代を生き抜く責任世代として、地域を牽引する青年経済人として、誇り高き奈良ＪＣの一員として、青年としてのあるべき姿を確立しましょう。人をワクワクさせるビジョンや、人の創造性を大きく開花させるようなイノベーションは、論理や理性だけでは生まれません。感性や美意識は、不透明な社会を切り抜けるうえで、明確な判断となります。そこに軸足を乗せ、自分自身で意思決定していくということの素晴らしさを体感しながら、地域を巻き込む狂熱的な運動を行っていきましょう。己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫び、２０１９年度の新たな門出に胸を膨らませ

ＲＥＰＲＥＳＥＮＴ　ＮＡＲＡ

すべては明るい豊かな社会を実現するために